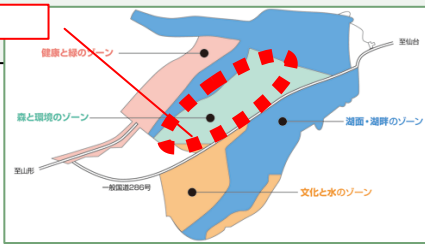




みちのく森の楽校(だより) 第9回

みちのく公園「里山地区」とは？

里山地区



公園区域の中央の釜戸湖に突き出した半島で、雑木林とスギ・ヒノキの植林地におかれた里山です。豊かで特徴的な自然環境が多く残されていることから、これらの保全・活用と適切な利用に留意しながら平成26年度春の開園を目指しています。

これまで、ツリーハウスづくり、樹林地管理や観察会など、さまざまな試行活動を行ってきました。今年度は、10回シリーズの親子会員活動を行っています。



2月15日(土) 雪、雪、雪！ 雪遊び

先週に引き続いて、今週も雪が降りました。金曜日の晩から、降り続いています。12月、1月とほとんど雪がなかったのが、今年は雪が少ないのかなと思っていましたが、とんでもない！これほどの雪はみちのく公園も初めてかもしれません。雪、雪、雪の中での会員活動。銀世界の中で、雪を思いっきり楽しみました。

雪遊び！

昨日の晩に、里山地区近くに来た時には、雪の深さはまだ膝くらいでした。そのまま降り続き、今朝は、腰くらいになっています。

ツリーハウスまでたどり着く道は、雪に埋まってしまい、どこが道やらわかりません。

ボランティアが早く来て、カンジキを履いて歩いて締固め、なんとか通れる通路を作ってくれました。その通路を通して、ツリーハウスへ。四苦八苦して、やっとたどり着きました。

一面の雪、雪、雪。積もった雪で、何が何やらよくわかりません。

「雪で遊ぼう！」ということで、まず、カマクラづくり。これだけの雪があれば、できるはず。

雪をあつめて、積み上げて、叩いて、固めて、固まったところで、中をくり抜きます。ふるさと村のカマクラにも負けていませんよ。

雪だるまも作りたいのだけど、カマクラを胴体にして、雪だるまにすることになりました。

カマクラの上に、雪を固めて、大きな頭を作りました。炭焼きで焼いた炭を目と口に。赤いバケツがあったはずですが、雪に埋もれて見つからないため、頭には黄色いヘルメットを被せました。手には熊手を2本。

大きくたくましい、カマクラ雪だるまができました！



ストーブで無発酵パンを焼きました。

自然共生園で収穫した小麦粉を使って、無発酵のパンを焼きました。パンの原型は 無発酵パン。インドのチャパティー、日本ではお焼きの皮などのようなものですね。これはイタリアの田舎のパンでピアリーナと言います。

小麦粉を水で溶いて生地を作って、薄くのばして、ストーブの鉄板に乗せ、焼きました。



カマクラ雪だるまは、カマクラだから、中に入ることができるのですよ。中に入って、お昼を食べました。

ソリ遊び 斜面をソリで滑りたい！でもソリがありません。で、何を使ったかという、ダンボールをレジ袋でくるんだものと、手箕(てみ)。手箕とは、脱穀などでカウを吹き飛ばすための平坦なカゴのような農具。里山では、土砂などの運搬に使っています。

身近にあった道具を使って、快適なソリになりました。



これが手箕



雪下ろし 遊んでばかりはいられません。この雪は重いのです。スギの梢から、バサバサッと休憩小屋の屋根に雪が落ちてきたり。

炭焼き小屋の屋根は、まだ仮設のテントです。つぶれたら大変！屋根から雪下ろしをしました。



雪景色

今日の活動中、雪がやむことはありませんでした。静かで、美しい里山です。

雪がやんだら、いろいろな動物が出てきて足跡を残します。足跡を観察すると、この里山に多くの生命が生きていることがわかります。

